

29年度指導方法の課題分析と具体的な改善策及び補充指導などの計画 教科 理科

| 学年 | 指導方法の課題分析 | 具体的な授業改善策 | 補充・発展指導計画 |
|--------|---|--|---|
| 1 年 | ○授業内の観察・定期考査より、「理科を好きな教科である」「得意教科である」と感じている生徒の割合が少ない。 また、科学的な見方や表現力に課題がある。観察、実験などの技能の向上や結果の考察・表現力を充実させることが課題である。 | ○科学的な思考力・表現力を高めていくための指導方法の工夫として、授業の中で、実験・観察の結果を生徒間で共有するなど対話を通して、時間をかけて追究する学習形式をとる。また日常生活との関わりについて考えさせる学習活動も多く取り入れられる。 | ○小学校で学んだことを確認しながら教科書や資料集の発展課題を取り上げ、実験・観察や演示実験等により関心、意欲を高める。個別の課題を設定し向上を図る。視聴覚教材等の学習教材を適宜使用し、更に意欲を高める。 |
| 2 年 | ○「理科の勉強は好きだ」、「理科の授業の内容はよくわかる」と感じている生徒が多いが、理科の知識や科学的な見方や考え方を活用することが、実生活や社会の問題解決のために役立つと考えている生徒が少ない。 | ○理科で学習した知識や技能に関連した自然の事物・現象や科学技術などについて、考えたりに説明したりする学習活動を充実させていく。具体的には単元の終わりに、その単元で学習したことと日常生活との関わりについて調べ、考えさせる学習活動の回数を増やす。 | ○学習内容の定着に時間を要する生徒については、教科の授業時間外に個別に指導する時間を設ける。 ○発展的な学習として、中学3年生の学習内容について簡単に扱うことを通して、学習内容のつながりを意識させ、学習内容の深化を図る。 |
| 3 年 | ○ 自然事象への関心・意欲・態度、及び知識・理解に比べ、観察・実験の技能と科学的な思考・判断の能力が不足する傾向にある。 ○ 状態変化や化学変化など、粒子の概念を基にした科学的な思考力を育成し、理解を深める指導が必要である。 | ○ 観察実験を重視し、予想（仮説）から考察までの流れの中で、原理原則や知識を基に結果について考察し、自らの言葉で表現する学習活動を増やしていく。 ○ 日常生活の中で起こる自然事象を原子や分子などの粒子の動きと関連して考えられるよう、例えば結露や錆びなど身近な自然現象を例にして学習できるよう、指導の工夫を図る。 | ○ 学習のまとめとして、他の単元との関連を含めて振り返り、学習内容の定着を図るとともに、自然事象を総合的に捉え、科学的な思考力を伸ばす指導を取り入れる。 ○ 日常生活の中で学びを生かせるよう、学習内容と関連のある自然事象について紹介し、生徒自身が考える時間を設定していく。 |